



The 1st Symposium on Personalized Oral Health Scienceを開催【関連記事3ページ】

リハビリテーション科学部の完成年度を迎えて



リハビリテーション科学部長 泉 唯史

本学5番目の学部としてリハビリテーション科学部が2013年4月に誕生しました。実に2年以上にもわたる理事会や設置準備委員会などの熱心な議論と綿密な準備を経ての誕生でありました。

この学部開設で理学療法学科と作業療法学科の教育が、また同時に開設された大学院リハビリテーション科学研究科博士前期課程がスタートしました。

その後、文科省によるアフターケアと称する実地調査が同年8月にあり、またリハビリテーション科学研究科の博士後期課程設置の準備を開始し、さらにリハビリテーション科学部に心理科学部からの言語聴覚療法学科改組の準備も始まりました。

2015年4月より、リハビリテーション科学部は理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚療法学科の3学科体制となり、大学院リハビリテーション科学研究科は生体構造機能・病態解析学分野、リハビリテーション治療学分野、地域健康生活支援学分野の3分野を擁する大学院博士前期課程(修士課程)と博士後期課程(博士課程)を持つ学部・研究科となりました。このように本学部は開設以来、これまでの他学部にはない短期間で非常に大きな展開がありました。

このような事業を遂行しえたことは、学園本部や事務局および他学部からの多面的な支援、そして本学部教員の弛みない努力と忍耐力と建設的で従容たる日常業務の積み重ねがあったからこそこの結果であると思います。

しかし本当の結果、すなわち私たちの育んできた果実は

真に社会に貢献できる存在になりえるのか、その答えはまだ出ていません。その答えの一つが就職活動の成果であり、また1期生の国家試験合格の成否でありましょう。

就職活動では、医療制度や診療報酬体系の改定、社会のニーズの変化という大きな波をかぶりながらも、専門性を生かし社会貢献をしたいという彼らの誠実で明確な意欲や動機、多職種連携を通して対象者により良い医療を提供していこうとする豊かな人間性や行動力といった面が大きく評価されます。

また国家試験では、合格率という数字が独り歩きしてしまっていますが、その背景にある普段からの基礎学習、学習態度、学びを中心とした規則的な生活、学びあえる友人との喜びの共有や教員の励まし・指導が重要です。日々の努力の積み重ねという極めて平凡ですが確実な結実への重要な要素であると考えています。

その上で、彼らがやがて医療従事者として、あるいは研究者や教育者として活躍するときに、リハビリテーション科学部で学んだ学問を基盤としてエビデンスを適切に使うこと、エビデンスを作ること、エビデンスを伝えること、これらの実現を通して、私たちの教育は真に実を結んだと言えるのかもかもしれません。

本学部は今年度で完成年度を迎えますが、これで“完成した”ということでは決してなく、幅広く社会のニーズに向き合い応えていける人材を輩出し続ける学部は今後も成長しなくてはならないと考えています。

CONTENTS

リハビリテーション科学部の完成年度を迎えて	1
新任教員・昇任教員紹介	2
学内合同就職相談会を開催 「福祉・介護のごと説明会」を開催	
極東国立総合医科大学 (ロシア・バロフスク)短期研修実施、 大学間交流協定締結	3
The 1st Symposium on Personalized Oral Health Scienceを開催 タイ・バンコク総務省の医療部門一行が 本学看護福祉学部を訪問	
INTERNATIONAL EXCHANGE	4
2017年度入試結果速報	6
札幌丘珠高等学校との高大連携授業を実施 札幌開成中等教育学校特別講義を実施	
地区別懇談会を開催	7
学園・同窓会役員懇談会を開催 平成28年度「後援会道南・東北支部(青函) 合同医療セミナー」を開催	
私の学生時代	8
OB訪問【看護学科】	9
STUDENTS' ACTIVITIES & EVENTS	10-11
TOPICS	11-12
EDITOR'S NOTE	

新任教員・昇任教員紹介

新任教員

平成28年9月1日付



心理学部准教授
(臨床心理学科)

野田 昌道 (のだ まさみち)

東京大学教育学部教育行政学専攻卒業。東京家庭裁判所家庭裁判所調査官、創国大学院教育学専攻臨床心理学専攻非常勤講師、裁判所職総合研修所研修講師、横浜家庭裁判所川崎支部主任家庭裁判所調査官等を経て、本学就任。

平成28年10月1日付



教授

吉田 繁 (よしだ しげる)

北海道大学医療技術短期大学部衛生技術学科卒業。同大学院医学研究科医科学専攻修士課程修了、同博士課程修了。北海道大学医学部附属病院検査部臨床検査技師、札幌市消防局救急救命士養成所非常勤講師、北海道大学大学院保健科学研究院講師等を経て、本学就任。医学博士。

平成28年10月1日付



薬学部講師
(実務薬学講座)

高村 茂生 (たかむら しげお)

本学薬学部薬学科卒業。明治製菓株式会社(現MeijiSeikaファルマ株式会社)、医療法人明日薬会札幌「ステイ・ウィル」ホスピタル診療部薬剤科薬剤師、同科長、北海道大学非常勤講師、北海道大学病院薬剤部薬剤師、同主任等を経て、本学就任。

平成28年6月1日付

歯学部 任期制助手(口腔構造・機能発育学系(小児歯科学)) **榎原 さや夏**

平成28年11月1日付

歯学部 助教(口腔構造・機能発育学系(歯科矯正学)) **中尾 友也**

平成28年7月22日付

看護福祉学部 助教(看護学科地域保健看護学講座:地域看護学) **萬 美奈子**

昇任教員

平成28年8月1日付



歯学部教授
(生体機能・病態学系<高齢者・有病者歯科学>)

會田 英紀 (あい たひでき)

北海道大学歯学部卒業。同大学院歯学研究科歯学臨床系専攻修士課程修了。北海道大学歯学部附属病院第一補綴科医員、カリフォルニア大学ロサンゼルス校客員研究員、本学歯学部口腔機能修復・再建学系咬合再建補綴学分野准教授等を経て、教授昇任。歯学博士。

平成28年9月1日付



心理学部教授
(臨床心理学科)

漆原 宏次 (うるし ほうじ)

関西学院大学文学部心理学卒業。同大学院文学研究科心理学専攻修士前期課程修了、同博士後期課程単位取得。情報系女子短期大学生活学科専任講師、本学心理学部臨床心理学科准教授等を経て、教授昇任。心理学博士。

平成28年度 学内合同就職相談会を開催

10月6日(木)、臨床福祉学科・臨床心理学科・言語聴覚療法学科・理学療法学科・作業療法学科を対象とした「平成28年度 学内合同就職相談会」を開催しました。



当日は、道内外の病院・施設・公務等団体より人事担当の方々が多数来学され、学生に対して就職に関する説明や相談等をしていただきました。

参加した学生は各ブースを積極的に訪れ、活発に相談等を行うなど、終始にぎわいをみせていました。

本学では学部ごとにほぼ毎月、就職ガイダンス等を行い、学生の卒業後の確実な就職にむけて、教職員協働のうえ、きめ細やかな指導をしています。本学各学部・学科に関わる職種の求人申し込みについては、本学ホームページをご参照ください。



10月6日 [参加団体] 183団体

●病院 ●施設 ●公務団体 ほか

就職関連ホームページ

<https://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~syusyoku/>

「福祉・介護のしごと説明会」(釧路・帯広会場)を開催

11月17日(木)【釧路会場】、11月18日(金)【帯広会場】にて、本学主催の「福祉・介護のしごと説明会」を開催しました。このイベントは、本学が北海道の「介護のしごと魅力アップ推進事業」の一環として、高校生、保護者及び高校



教諭向けに行っている事業です。

説明会では、北海道保健福祉部による講演や本学教員からの説明、卒業生(現場職員)の特別講演などを行い、一般的に介護という職業に対して抱かれているイメージとは違う、介護の魅力・実情を高校生や教員のみなさんに感じとっていただけたようでした。終了後も、高校生のみなさんが積極的に現場職員へ質問している場面も見られ、盛況のうちに終了しました。

また、12月2日(金)には、北見会場での開催も予定しています。



北見会場の詳細についてはこちら

日時 2016年12月2日(金)
16:30~18:00 (受付開始:16:00)

会場 北見歯科医師会館
(北海道北見市大通西5丁目10-2)

申込書はこちらのURLからダウンロードできます

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~web/news/files/medias/820/sanka.pdf>

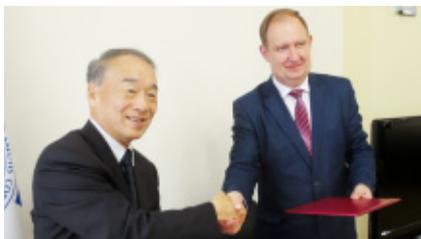
極東国立総合医科大学(ロシア・ハバロフスク)短期研修実施、 大学間交流協定締結

7月25日(月)から8月5日(金)の約2週間、極東国立総合医科大学(ロシア・ハバロフスク)よりエリザヴェータ スホペイさんが来日し、歯学部にて短期研修を行いました。



古市教授より修書の授与:中央エリザヴェータさん、古市教授

同大学と本学歯学部は今年4月に学術協定を締結し、今回は初となる学生研修の受け入れでした。プログラムは、フランス、スウェーデン、中国、台湾からの短期留学生等と合同で行い、国際色



左:浅香学長 右:ジメレネツキー学長

豊かな研修となりました。

9月19日(月)、本学の浅香学長と歯学部の佐藤講師が極東国立総合医科大学を訪問し、大学間交流協定を締結。調印式には、同大学からジメレネツキー学長、タキシノフ副学長、ユルケヴィチ歯学部長をはじめ多数の関係者が出席し、浅香学長とジメレネツキー学長が協定書にそれぞれ署名を行い、固い握手を交わしました。

今後、歯学部のみならず、リハビリテーション科学部をはじめとする全学的な交流が期待されます。

また、今回の協定についての記事が、共同通信社より全国に配信されました。

The 1st Symposium on Personalized Oral Health Science を開催

「The 1st Symposium on Personalized Oral Health Science」を、8月23日(火)札幌サテライトキャンパスで開催しました。

本シンポジウムは、8月24日(水)から26日(金)の間、札幌コンベンションセンターで開かれた第58回歯科基礎医学会学術大会(大会長田隈泰信 教授)の連携シンポジウムとして、台

北医学大学(大学間提携校)、同済大学、インドネシア大学、ストラスプール大学、中山大學、マヒドン大学、イエテボリ大学、極東国立総合医科大学(以上、歯学部提携校)、ユング・シュテリング病院(歯学部提携機関)、カトマンズ大学、シャヒドタジュディンアーメド大学から19名の教員を招いて開催しました。

当日は、本学教員52名、大学院生30名、短期留学生7名を含め110名が参加し、大会長斎藤隆史歯学部長による開会あいさつの後、各大学の特色ある研究、臨床、教育についての発表と熱いディスカッションが展開され、大学間の今後の連携の橋渡しとなる議論の場となりました。午後6時からは、京王プラザホテル札幌において、短期留学生(台北医学大学2名、中山大學4名)による研修報告会を開催し、その後の懇親会で各大学教員との懇親を深めました。懇親会は三味線・日本舞踊のアトラクションもあり大いに盛り上がりました。

本シンポジウムをきっかけに、本学と海外提携大学・機関との学術交流・学生交流が今後ますます盛んになることが期待されます。



タイ・バンコク総務省の医療部門一行が本学看護福祉学部を訪問

8月5日(金)に、タイ・バンコク総務省医療部門のDr.Surinを団長とした医療チーム37名が本学看護福祉学部を訪問しました。

平学部長によるあいさつの後、それぞれの学科の教員による、看護と福祉の教育システム、および地域包括ケアシステムと本学の教育の特徴などについて説明がありました。その後、実習室を見学するなど、当初の予定時間を大幅に超えて活発な質疑応答がなされました。



左:Dr.Surin
右:平学部長



実習室見学



各教員による看護・福祉の教育システム等の説明



タイ訪問団との集合写真

INTERNATIONAL EXCHANGE

北海道医療大学の国際交流

短期研修 /

REPORT

1

中山大学(中国)・台北医学大学(台湾)の短期研修実施

[薬学部]

8月1日(月)から26日(金)まで、交流協定を締結している台北医学大学薬学部の藍仁涓さん、林庭卉さん、劉令儀さんの3名が、短期留学生として来日し、本学薬学部にて薬学部短期研修を行いました。

2013年度から学生交流事業(派遣および受け入れ)を毎年行っており、今年度で4回目となります。

初日となった1日(月)には、本学学生19名、教員24名を含めた計46名が参加して、歓迎会と懇親会を行いました。留学生より、自己紹介ならびに台北医学大学についての紹介があり、3名を囲んでの懇親会は大いに盛り上がりました。

2日目以降は学内での講義体験、研究室訪問に加えて、学外の薬局、病院で見学実習などが行われました。研修は在学生在がサポートしながら行われ、充実したプログラムとなりました。

25日(木)に行われた報告会は、留学生それぞれが日本語で発表を行い、今回の研修で学んだ成果を報告しました。その後の懇親会では、在生も多数参加し、今回の研修での思い出話を花を咲かせました。



前列右から:安彦教授、劉令儀さん、林庭卉さん、和田学部長、藍仁涓さん、村井教授



報告会の様子



和田学部長より修了書の授与
前列左から:和田学部長、藍仁涓さん、劉令儀さん、林庭卉さん、村井教授

[歯学部]

中山大学より、乔永杰さん、陈正元さん、邝树鸿さん、罗浩原さんの4名が、台北医学大学より、紀均儒さん、鍾宜家さんの2名が来日し、歯学部短期研修に参加しました。

研修は中山大学が8月1日(月)から26日(金)までの約4週間、台北医学大学が8月8日(月)から26日(金)までの約3週間でスウェーデン等の他大学の学生と合同で行いました。

報告会は、両大学の教授も出席し、国際シンポジウムのレセプションパーティーにてドイツ、フランス、スウェーデン等、各国提携校教員や本学教員・学生の前で行われました。



齋藤歯学部長より修了書の授与
後列左から:王彦教授(中山大学)、齋藤歯学部長、乔永杰さん、罗浩原さん、邝树鸿さん、陈正元さん、蔡恒惠教授(台北医学大学)、王焱教授(中山大学)、前列左から:紀均儒さん、鍾宜家さん

[看護福祉学部・歯科衛生士専門学校]

昨年に引き続き、本年も台北医学大学から看護学部老年健康管理学科、口腔学部口腔衛生学科の学生が本学を訪れ、約2週間の研修を行いました。

看護福祉学部研修では、林庭毅さん、彭柏雁さん、林資翰さんの3名が参加し、7月4日(月)から15日の間、本学にとどまらず、学外の施設・病院を訪問するなど、充実したプログラムで研修を行いました。

歯科衛生士専門学校では、李知蓉さん、陳若穎さん、許宸璋さんが7月11日(月)から22日(金)の間、本学の学生と同じスケジュールで、すべての講義・実習を日本語で受講しました。

今後も台北医学大学と本学の交流はますます盛んになることが期待されます。



平看護福祉学部長より修了証の授与
左から林資翰さん、林庭毅さん、平学部長、彭柏雁さん



坂倉校長より修了証の授与
前列左から:李知蓉さん、陳若穎さん、許宸璋さん、杉原先生
後列左から:坂倉校長、岡橋先生、大山先生、千葉先生、植木先生

短期研修 /

REPORT

2

ストラスブール大学(フランス) 短期研修実施

7月4日(月)から9月9日(金)までの約2カ月間、本学歯学部と学術協定を締結しているストラスブール大学歯学部(フランス)から、5年生のPrescillia Pageさんが来学し歯学部で研修を行いました。

本学滞在中は主に生体材料工学分野の遠藤教授の指導の下、デンタルインプラント素材としてのチタンとジルコニアの耐食性を比較する実験に従事されました。チタンは口腔内で使用される洗口剤や歯磨剤に含まれるフッ化物によって腐食する欠点がありましたが、ジルコニアは酸性フッ化物環境下においても化学的に極めて安定し、腐食しないことを見いだしました。これらの研究成果の一部を8月20日(土)に北海道大学で開催された日本歯科理工学会北海道東北地方会夏期セミナーにおいて発表しました。

研修期間中は研究活動だけでなく、本学の学生・大学院生、研修日程が重なっていたイエテボリ大学(スウェーデン)、極東国立総合医科大学(ロシア)、台北医学大学(台湾)、中山大学(中国)からの短期研修生との交流もあり、充実したプログラムとなりました。9月9日(金)に行われたプレゼンテーションでは、研究や臨床研修を通して

学んだ成果ばかりではなく、北海道の自然や食、日本の文化や日本人の人となりに関して感じたことを率直に語られ、感動的な報告会になりました。

9月8日(木)から来年6月24日(土)までの10カ月間、歯学部臨床口腔病理学分野の佐藤惇講師がストラスブール大学歯学部において客員研究員として研究に従事する予定となっており、両大学の学術交流がますます活発となることが期待されています。



報告会にて



齋藤歯学部長より
修了書の授与

短期研修 /

REPORT

3

イエテボリ大学(スウェーデン) 短期研修実施

7月26日(火)から8月12日(金)の間、本学歯学部にてイエテボリ大学(スウェーデン)のエリサ マレキさん、ヘドヴィック ペテルソンさん、エルミラ ラバルさんが約3週間の短期研修を行いました。

研修初日には、スウェーデン・レクサンド市と姉妹都市である当別町の宮司町長を表敬訪問後、スウェーデンヒルズやレクサンド記念公園等を見学しました。

プログラムは、フランス、ロシア、中国、台湾からの短期留学生と合同で歯学部や大学病院で行い、国際色豊かな研修となりました。また、最終日には、報告会と懇親会を行い、在学生や教員との交流を深めました。



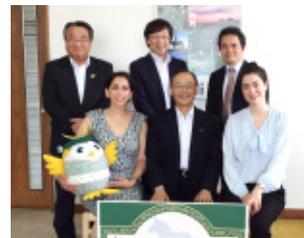
懇親会にて:記念品の授与
左から、エリサ マレキさん、
ヘドヴィック ペテルソンさん、
エルミラ ラバルさん



報告会にて:齋藤学部長より修了書の授与



当別町長を表敬訪問



前列中央:宮司町長

2017年度 入試結果速報

北海道医療大学

AO方式・一般推薦・指定校特別推薦で志願者は合計462名

AO方式入試は、全体で188名の志願があり、96名が合格、実質競争倍率は2.0倍となりました。一方、11月13日(日)の推薦入試は本学当別キャンパスをはじめ、帯広、北見、函館、仙台、東京、大阪、那覇の全国8会場で行われ、志願者総数は124名(指定校特別推薦除く)で、70名が合格、実質競争倍率は1.8倍でした。

編入学I期試験は、全体で16名の志願があり、10名が合格、実質競争倍率は1.6倍となりました。編入学II期試験は、薬学部と歯学部は1月30日(月)、看護福祉学部、心理科学部、リハビリテーション科学部は1月31日(火)に、それぞれ札幌、東京、大阪の3会場で行われます。

学部・学科名	入試形態	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	実質競争倍率
薬学部	社会人	7(7)	1(5)	1(5)	0(4)	—(1.3)
	一般		6(5)	6(5)	2(2)	3.0(2.5)
歯学部	2年次	若干名(若干名)	2(8)	2(8)	2(3)	1.0(2.7)
	3年次	若干名(若干名)	1(3)	1(3)	0(0)	—(—)
	看護福祉学部	社会人	1(0)	1(—)	1(—)	1.0(—)
●看護学科	一般	6(6)	0(1)	0(1)	0(1)	—(1.0)
	●臨床福祉学科	社会人	0(0)	0(—)	0(—)	—(—)
●臨床福祉学科	一般	6(6)	2(0)	2(—)	2(—)	1.0(—)
	指定校		0(0)	0(—)	0(—)	—(—)
心理科学部	社会人	2(2)	0(0)	0(—)	0(—)	—(—)
	●臨床心理学科		一般	0(1)	0(1)	0(0)
リハビリテーション科学部	社会人	3(3)	0(0)	0(—)	0(0)	—(—)
	●理学療法学科		一般	0(1)	0(1)	0(1)
●作業療法学科	社会人	3(3)	0(0)	0(—)	0(0)	—(—)
	一般		1(0)	1(—)	1(—)	1.0(—)
●言語聴覚療法学科	社会人	7(—)	1(—)	1(—)	1(0)	1.0(—)
	一般		1(—)	1(—)	1(—)	1.0(—)
合計		34(27)	16(24)	16(24)	10(11)	1.6(2.2)

※2017年度より、リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科の編入学試験を実施。

学部・学科名	入試形態	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	実質競争倍率	
薬学部	AO方式	17(17)	38(34)	38(34)	22(21)	1.7(1.6)	
	一般推薦	17(17)	19(32)	19(31)	17(18)	1.1(1.7)	
	指定校特別推薦	28(28)	53(53)	53(53)	53(53)	1.0(1.0)	
歯学部	AO方式	20(20)	5(10)	5(10)	5(10)	1.0(1.0)	
	一般推薦	8(8)	0(2)	0(2)	0(2)	—(1.0)	
	指定校特別推薦	8(8)	6(9)	6(9)	6(9)	1.0(1.0)	
看護福祉学部	AO方式	6(6)	43(48)	43(48)	11(10)	3.9(4.8)	
	●看護学科	一般推薦	16(16)	49(42)	49(42)	19(20)	2.6(2.1)
	指定校特別推薦	16(16)	30(30)	30(30)	30(30)	1.0(1.0)	
●臨床福祉学科	AO方式	15(15)	8(5)	8(5)	8(5)	1.0(1.0)	
	一般推薦	10(10)	0(0)	0(—)	0(—)	—(—)	
	指定校特別推薦	14(14)	13(12)	13(12)	13(12)	1.0(1.0)	
心理科学部	AO方式	10(10)	12(12)	12(12)	10(11)	1.2(1.1)	
	●臨床心理学科	一般推薦	10(10)	5(1)	5(1)	5(1)	1.0(1.0)
	指定校特別推薦	10(10)	13(12)	13(12)	13(12)	1.0(1.0)	
リハビリテーション科学部	AO方式	10(10)	39(42)	39(42)	12(14)	3.3(3.0)	
	●理学療法学科	一般推薦	10(10)	31(23)	31(23)	16(10)	1.9(2.3)
	指定校特別推薦	10(10)	15(19)	15(19)	15(19)	1.0(1.0)	
●作業療法学科	AO方式	5(5)	21(8)	21(8)	9(7)	2.3(1.1)	
	一般推薦	5(5)	14(5)	14(5)	8(5)	1.8(1.0)	
	指定校特別推薦	5(5)	8(6)	8(6)	8(6)	1.0(1.0)	
●言語聴覚療法学科	AO方式	12(12)	22(16)	22(16)	19(14)	1.2(1.1)	
	一般推薦	7(7)	6(8)	6(8)	5(8)	1.2(1.0)	
	指定校特別推薦	8(8)	12(15)	12(15)	12(15)	1.0(1.0)	
合計	AO方式	95(95)	188(175)	188(175)	96(92)	2.0(1.9)	
一般推薦	83(83)	124(113)	124(112)	70(64)	1.8(1.8)		
指定校特別推薦	99(99)	150(156)	150(156)	150(156)	1.0(1.0)		
		277(277)	462(444)	462(443)	316(312)	1.5(1.4)	

歯学部附属歯科衛生士専門学校

AO方式入試に25名の受験

本年度、AO方式入試には現在までのところ25名の受験があり、全員が合格、実質競争倍率は1.0倍でした。一般前期入試(B日程)は、1月31日(火)に札幌、旭川、帯広、北見、函館の全道5会場で行われます。

学科名	入試形態	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	実質競争倍率
歯科衛生科	AO方式	20(20)	25(31)	25(31)	25(31)	1.0(1.0)
	推薦入試	17(17)	1(0)	1(—)	1(—)	1.0(—)

札幌丘珠高等学校との 高大連携授業を実施

8月22日(月)、23日(火)と8月29日(月)、30日(火)の4日間にわたり、北海道札幌丘珠高等学校3年生 数理フィールド(看護)21名、数理フィールド(生物選択)10名を対象に、高大連携授業を実施しました。

8月22日(月)、23日(火)は、両コースの生徒が参加し、数理フィールド生物選択の生徒は、本学個体差健康科学研究所による、自分の細胞からDNAを抽出し、耳垢型を解析する実験を体験。看護コースの生徒は、高齢者体験や模擬講義を通して、臨床福祉学科教員から福祉について学びました。



8月29日(月)、30日(火)は再び看護コースの生徒が来学し、看護学科教員の模擬講義や血圧測定の実験等を通して看護について学びました。



高校生のみなさんは一定早く、遺伝子解析実験など大学ならではの学問・研究が体験できたことで興味・関心が深まった様子。これを機会により学びのモチベーションが高まればと思います。

札幌開成中等教育学校 特別講義を実施

7月28日(木)と29日(金)の2日間にわたり、札幌開成中等教育学校4年生52名を対象に、特別講義「プレ先端科学特論」を実施しました。

テーマは「自分の遺伝子を解析してみよう」。初日は本学個体差健康科学研究所 坂野雄二所長による講演、「不安の正体を探る」を実施。その後、同研究所 太田亨教授による、遺伝子の基礎についての講義、自分の細胞からDNAを抽出し耳垢型を解析する実験を実施。



2日目は、岩手医科大学 医学部 臨床遺伝学 徳富智明准教授による講義「家系図作成プログラムを使って家系図を作成しよう」と、初日の実験結果の確認・玉ねぎのDNAを抽出する実験をそれぞれ交互に行いました。



遺伝子解析実験や最先端の講義など大学ならではの学問・研究の様子を知る機会を持ち、またその内容について理解と興味を深める有意義な時間を過ごしたようでした。

平成28年度地区別懇談会を開催 多数のご出席ありがとうございました

平成28年度の地区別懇談会は、10月15日(土)から11月6日(日)までの期間、全国16地区17会場(右表参照)で開催し、1,005組1,412名の保護者の皆様にご出席いただきました。(出席率28.2%)

各会場では、総会(後援会・学園役員あいさつ/学園動向報告)、学部・学校別懇談会(現況報告、国家試験・就職関連動向報告)、全体懇談会、個別面談(学生生活全般に係るご相談)を実施し、特に、担当教員との熱心な個別相談が行われていました。

後援会は、学生のサポート役、保護者の皆様と卒業生、学園とをつなぐパイプ役として、また、学園のけん引役として組織の強化、地区支部の活性化、学生生活関連助成、同窓会活動支援等を柱とし、学生生活における快適な環境をつくることを大きな目的として事業活動を推進しています。

地区別懇談会は、後援会が「保護者の皆様と学園をつなぐ貴重な架け橋」として最も力を入れている事業活動のひとつであり、皆様により一層ご満足いただけるよう、内容の更なる充実に向け、今後も改善を図って参りますので、温かいご支援、ご理解とご協力を賜り、来年度もぜひご出席くださいますようお願い申し上げます。



■ 総会



■ 個別面談

開催地	開催日	出席者数	
		大学・大学院	専門学校
札幌	10月30日(日)	421組	19組
釧路	10月22日(土)	55組	1組
帯広	10月23日(日)	69組	6組
旭川	11月5日(土)	85組	9組
北見	11月6日(日)	49組	3組
苫小牧	11月6日(日)	32組	3組
函館	11月5日(土)	91組	1組
青森	10月16日(日)	31組	1組
盛岡	10月22日(土)	13組	—
仙台	10月15日(土)	19組	—
東京	10月15日(土)	33組	—
名古屋	10月16日(日)	17組	—
大阪	11月6日(日)	21組	—
広島	11月5日(土)	6組	—
福岡	10月16日(日)	12組	—
那覇	10月15日(土)	8組	—
小計		962組	43組
合計		1,005組	

平成28年度学園・同窓会役員懇談会を開催

11月21日(月)午後7時より京王プラザホテル札幌において平成28年度「学園・同窓会役員懇談会」を開催しました。懇談会には、各同窓会役員等21名、並びに学園より浅香学長や黒澤副学長、学園理事、各学部長、専門学校長、及び事務局の総勢38名が出席しました。

懇談会は、学長によるあいさつの後、各同窓会より活動状況の報告、学園より入試概要・学園動向報告、学部・学校概況報告(資料配布)が行われました。各同窓会と学園の間の強固かつ盤石な協働体制及び各同窓会相互の横断的な交流の重要性を再認識し、盛会裏に終了しました。



平成28年度「後援会道南・東北支部(青函)合同医療セミナー」を開催

11月3日(木)、フォーポイントバイシエラトン函館において「後援会道南・東北支部(青函)合同医療セミナー」を開催しました。セミナーには後援会の林道南支部長及び川元東北支部長をはじめ、道南・東北各支部所属の卒業生や一般の介護専門職の方など、総勢51名が出席されました。

このセミナーは、本年3月の北海道新幹線開業に伴い、青函の更なる交流促進を目的として両支部合同で今年度から開催しています。第1回となる今回は山田律子看護福祉学部教授による「多職種協働による認知症高齢者の食支援」と題した講演が行われ、その後の懇談会では、山田教授を交え、卒業生、専門職のみなさんの交流が終始和やかに行われていました。



私の学生時代

看護福祉学部
看護学科

講師 神田 直樹



私は高校まで本州で過ごし、大学入学のため北海道にきました。高校時代は、ボート部に所属していました。所属していた高校のボート部は、何度も全国制覇をしている強豪で、全国制覇が常に目標でした。ボート部員は学校祭や体育祭には参加せず、出席を取った後は練習するということが当たり前であり、高校生らしい楽しい思い出は皆無でした。そのような状況であったため、大学では「楽しいこと、



大学1年 広島国体7位入賞時
(右から2番目が私)

やりたいことをする」と決めて大学に入学しました。

最初の1カ月は新しい友人といろいろ交流し、とても刺激的でしたが、夢中になれるものを見つけることはできませんでした。そんな時、大学にボート部があることを知り入部しました。ボート部は先輩後輩の仲が非常に良く、とても楽しい日々を過ごしていましたが、どちらかというと「デンタル(歯科学学生総合体育大会)」を目指し練習するのがメインで、看護学科の私は選手登録できない、できてもオープン参加、オープン参加で圧勝しても…という状況で残念な思いをしていました。そんな時、当時の歯学部の方を紹介していただき、クラブチームの一員としても活動することになりました。クラブチームは社会人が多いため、週5回、朝の5:00~7:20まで茨戸で水上練習をし、その後大学に通学していました。授業が終



大学3年 オックスフォード盾レガッタ(全国大会)3位時
(前列右端が私)

われば大学で陸上トレーニングをして、また次の日に朝練という生活でした。よって、当時の先生方には申し訳ありませんが、授業中は居眠りの多い学生だったと思います(申し訳ありません)。

しかし、練習を重ねたおかげで北海道代表として国体に3回出場させていただき、さまざまな全国規模の大会でも入賞することができました。このように、大学生活もボート中心の生活ではありましたが、高校

時代とは違い、辛い中にも楽しい日々も過ごすことができました。夢中になれるものを見つけられると生活が充実することを学んだ学生生活でした。

私の学生時代

今、本学の教壇に立たれている先生たちは、学生時代をどのように過ごしていたのでしょうか。今回は神田 直樹講師と浅野 雅子准教授のお二人に、当時の様子を語っていただきました。

私の学生時代

リハビリテーション科学部
作業療法学科

准教授 浅野 雅子



私は北海道大学医療技術短期大学部作業療法学科(現:保健医療学部)の出身です。3年間のうち、3年前期に長期実習がありましたので、実際の学生生活は約2年半と短いものでした。ですが中身は大変濃く、今振り返ってみても“あの頃は充実していたなあ”と思っています。その理由は、同期や教員との関係の濃さに



入学してすぐの頃の「実習いってらっしゃい」ジンパ。
校舎前がジンパ会場。大学生って素敵♡ジンパ最高!

尽きると思います。

入学して暖かくなってくるころから、構内で“ジンパ(ジンギスカンパーティー)”が始まります。先輩方が実習へ出向く前後に行われるのが定例のものですが、この他、個人でもジンパを行っている先輩方がおり、近くを通ると「お前も入れ」と気軽に声をかけてくれたものでした。また、教員との距離もとても近く、一人暮らしの友達の家で飲み会をしていると助手の先生が紛れていることもしばしば。長期実習が終わった夏休み、打ち上げを兼ねたキャンプをしようと計画を立て、当日海に着くと、噂を聞きつけた教授がお父さんのように差し入れを持って参加しており、私たちに混ざって一緒に楽しんでおりました。勉強については、解剖学や運動学は覚えることが大量でしたので、身体中の筋の起始・停止部に赤丸シールを貼ったり、関節可動域や徒手筋力検査の練習



3年生。実習が終わってお疲れ様の夏休みキャンプ。
先生も遊びに来る仲の良さ

では身体を貸し合いっこしながら、放課後、皆でワイワイと学んだものでした。

このようにいつも皆と過ごした反動で、就職した1年目は、仲間が口々に“寂しい…”と話し、結果、毎月持ち回りで同期が就職した各地方(札幌、旭川、室蘭、帯広など)で飲み会を開催しておりました。さすがに全員ではありませんが、今でも一部の同期とは学会の他、お盆や年末年始に顔を合わせる仲です。このような仲間は人生にとって大変ありがたい存在で、かけがえのない宝です。医療大の学生さんたちも、こんな仲間との関係を持ってもらえるといいなと思いながら、自分の経験を生かしつつ、学生指導を行っていきたいと思います。

OB訪問

東京都心から1時間ながら、豊かな自然を残す八王子市。天狗伝説の残る高尾山のふもとで約90年の歴史を刻んできた駒木野病院が藪下さんの職場です。精神看護一筋17年、精神系疾患・こころの専門病院の看護科長として活躍中です。

駒木野病院 看護科長

藪下 祐一郎さん（看護福祉学部 看護学科1999年卒業）



精神看護にめざめ一念発起

藪下さんは本学在学中の実習で精神科分野に強くひかれ、専門病院を就職の第一希望としました。精力的に全国の病院を調べ中、精神科医療の質向上に情熱的に取り組む駒木野病院と出会い、一念発起して就職しました。精神看護へのわき上がる興味が、新卒での専門病院就職、出身地・札幌を離れる不安に勝りました。卒後17年の現在は看護師24名、看護補助者4名で年間300人以上の患者さんを受け入れる精神科救急病棟の看護科長です。

15年ぶりの患者さんに教わる

藪下さんが看護科長になったのは20代後半。若いだけに「自分の中の看護科長はこうあるべき」という概念に縛られ、臨床能力・経験不足を意識せざるをえず、周囲との距離感をつかむことも難しかったです。相当肩に力が入っていました」と言います。少し自信が付き、自然体で自分の力をそのまま出せるようになったのは、2012年に立ち上げを任された救急病棟が軌道に乗ったあたりからだったといえます。

看護師として成長するにはさまざまな場所での経験を積み、学ぶという道もありますが、藪下さんは一つの病院で精神科の臨床を極める看護師となりました。そして、定点をもった者だからこそ

得られる手応えを強く感じています。「新人の頃担当した、当時10代の患者さんが15年ぶりに再入院され、『お互い年取ったね』『頑張っていたんだね』と何げない言葉を交わしたとき、患者さんと共に年を重ねていく、10年を超え長期的に予後を見ていける精神看護の大きな魅力をもた一つ発見した思いでした」。

患者さんのために垣根を越える

駒木野病院は一般精神病棟のほか2つの精神科救急病棟、全国でも珍しい児童精神病棟、認知症治療病棟を有し、アルコール総合医療センターを開設するなど精神系疾患、心の病を広くカバー。その他SSK（サービスステーション 駒木野）では患者教育プログラムや家族心理教室などを実施しています。医師、看護師、薬剤師、リハビリテーションスタッフ、ソーシャルワーカーや心理士、栄養士など多職種が連携して医療サービスを提供し、退院支援のケースカンファレンスには地域の関係者に参加してもらうこともあるといいます。デイケア、訪問看護ステーションとも密接な連携が欠かせません。藪下さんは科長として病棟内の看護師を束ねながら、常に他の職種はもちろん、地域との連携を視野に入れ、患者さんのためにこのチームで自分ができるかを考え、行動しているといいます。



卒業式の後に同期と撮った1枚。中央が藪下さん。左から2番目の明野伸次さんと右端の神田直樹さんは共に本学講師として活躍中。

家族の思いに耳を傾ける

藪下さんがとくに力を入れているのは、患者さんの家族のサポートです。病棟だけでは家族が精神科医療にどんな期待を寄せているのか、患者さんとどんな気持ちで接しているのか、ゆっくり聞く機会が足りないと、2カ月に1回のペースで「家族のためのサポートグループ」を開催し、統合失調症の患者さんの家族が思いを共有できる場を提供しています。「どうやって医師に相談したらいいのかわからない、具合の悪い家族ともう一緒にいたくないと思うことは悪いことなのか、そんなご家族のお気持ちを伺うようになり10年以上になります。ご家族のお気持ちにしっかり耳を傾け、その期待に応える病棟づくりに生かすことをめざしています」。

「変わらない」安心感

看護師として着々と経験を積み藪下さんですが、いまでも学生時代の実習の緊張感、新人の頃の丁寧さなど「初心を忘れないこと」を心がけているといいます。「尊敬する先輩がみなそうしていると思うからです。経験や知識がどんなに増えても、目的や看護へのスタンスは変わらない。それが患者さんに安心感を与えたいと思います」。

大学卒業時に思い切って踏み出した一歩、その熱い思い、覚悟は繰り返し立ち返ることでいっそう強さを増しているようです。



「さまざまな人を対象にする仕事です。男性、女性、どちらかに偏ることはよくない」と言う藪下さんは、看護師として男性であることを特に意識したことはないそうです。「男性・女性より、まず看護師であること」。



同じ病棟で本学の後輩も活躍中。写真は田村那津美さん（2015年卒）。管理職としての藪下さんの心構えは「スタッフには平等に接する」「スタッフの力を信じる」。

文化週間

「文化週間を振り返って」

文化局執行部 久米 正悟 (リハビリテーション科学部 3年)

文化週間とは、文化局に所属している団体が、作品展示や研究発表、演奏などを行うことで、学生や教職員の方々にそれぞれの団体の活動を知っていただくために、毎年行っている企画です。今年度は10月31日(月)から11月4日(金)にかけて行いました。

吹奏楽団や弦楽部による演奏会、茶道部のお茶会やカフェクラブの模擬カフェ、植物研究部や歯科医療問題研究会による研究発表といったように、それぞれの団体が個性を生かし、素晴らしい発表をしてくれました。そのおかげで今年度の文化週間もたいへんな盛り上がりを見せたと思います。

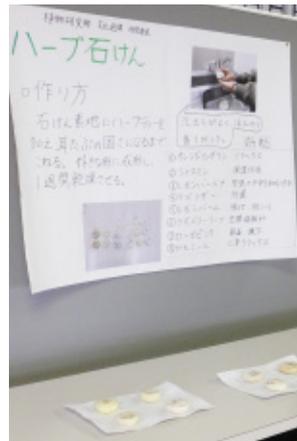
■開催内容

軽音部	軽音Live
YOSAKOIソーラン祭り部	演舞上映
茶道部	お茶会
北海道医療大学カフェクラブBonheur	模擬カフェ
北海道医療大学吹奏楽団	演奏会
弦楽部	演奏会
SF研究部	部誌の作成・配布
植物研究部	研究発表
美術部	作品展示
pharm*H	発表展示
写真部	作品展示
北海道医療大学ピアノ同好会	演奏会
歯科医療問題研究会	研究発表
アカベラ部 chapel	アカベラLive
軽音部・弦楽部・アカベラ部・ピアノ同好会	合同ライブ

そして今年度は初めての試みとして、軽音部、弦楽部、アカベラ部、ピアノ同好会の音楽系サークル4団体による合同ライブも行いました。初めてということでは不安は多かったですが、本番当日は多くの学生に足を運んでもらえたので、成功裏に終わることができたと思います。

文化局に所属している団体は、皆さんに活動を披露する場が少ないので、文化週間を通して興味を持っていただけたら幸いです。

最後になりましたが、文化週間に参加、協力してくださった皆様、本当にありがとうございました。



植物研究部



弦楽部



吹奏楽団

球技大会

「球技大会を振り返って」

梶浦 和生 (薬学部 1年)

今年の秋季大会は11月7日(月)から11日(金)までの5日間にわたり開催されました。さまざまな学部、学科、学年の方々に参加していただき、バスケットボール、バレーボール、フットサルの試合を行いました。選手の方々の熱いプレー、観客の方々の大きな拍手や歓声が絶えることがないほど会場は盛り上がりました。スポーツを通じて選手・観客の皆さんが一つになれた一週間になりました。

最後になりましたが、秋季大会に参加、ご協力してくださった皆様、本当にありがとうございました。



クラブ

今年もたくさんのクラブが各大会で大健闘!

学生会体育局の各団体より4~8月の試合結果が報告され、主として、以下の優秀な成績を残しました。

■2016年度上半期クラブ戦績

団体名	月 日	大会名	参加種目	戦 績
体育局	空 手 部	5/7	第46回北海道学生空手道選手権大会 兼 全日本学生空手道選手権選抜大会	個人 3位
	ウェイトトレーニング部	5/15	国民体育大会パワーリフティング 第20回北海道クラシックベンチプレス選手権大会	女子63kg級 優勝
				女子72kg級 優勝
		6/5	第77回北海道学生パワーリフティング選手権大会 第43回全日本学生パワーリフティング北海道地区予選	男子83kg級 優勝(北海道代表) 女子63kg級 優勝(北海道代表) 女子72kg級 優勝(北海道代表)
	剣 道 部	7/9	北海道医療系学生剣道大会	女子団体 準優勝

大学祭実行委員会

九十九祭を振り返って

大学祭実行委員会委員長 津野 日奈子(看護福祉学部 看護学科3年)



九十九祭は今回で38回目を迎え、多くの方々のご協力により、無事終了することができました。まずはこの場をお借りし、九十九祭にご協力いただいた学生や教職員の皆様をはじめ、関係企業ならびに協賛していただいた企業の皆様、当別町の皆様、そして九十九祭にご来場いただいた皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

私たち大学祭実行委員会は、既存の企画はもちろん、SNSを利用した新たな企画も取り入れるなどして、ご来場いただく方々一人ひとりに楽しんでもらえるよう工夫を凝らしながら準備を行って来ました。今回は小雨が降る中での前夜祭及び花火の打ち上げとなりましたが、私の念が通じたのか、何とか本祭の二日間は雨に降られることなく、運営をすることができたので本当に良かったです。

しかしながら、今回は予想外のトラブルが多くあった年でもありました。何があっても対応できるよう準備はしていますが、トラブルはつきものです。これはむしろ、次回をよりよくするための材料が増えたポジティブに捉え、しっかりと反省・改善をして、次の代へと引き継いでいきます。

現在、大学祭実行委員会では、次回の大学祭に向けて準備を進めております。関係者の皆様には、変わらぬご支援・ご協力をお願いいたします。これからも私たち大学祭実行委員会と九十九祭をよろしく願っています。



体育局

体育局を振り返って

体育局長 林 智也(リハビリテーション学部 理学療法学科3年)



体育局の仕事には主に毎月行われている定例会を運営し、学生支援課からの連絡を各部活・同好会に周知させること、各部活・同好会の予算や決算の面談を行うこと、毎月の体育館割り当ての日程を作成することがあります。

私は1年間体育局長として副局長、書記と共に上記の仕事をしてまいりました。しかし今まで体育局長などの上の役職についたことがなかったので、最初の頃は仕事に慣れず、学生支援課や部活に迷惑をかけてばかりでした。

定例会では人前に立って話すことが苦手で緊張で早口になってしまい、下ばかり向くことが多く、連絡事項がうまく伝わらなかったことがありました。また、体育館割り当ての作成ではあまり各部活・同好会の要望に応えることができずに作成が遅くなることもありました。

しかし、体育局の仕事をしていくうちに仕事に慣れてきて、苦手だった人前で話すことが少しずつですができるようになってきました。体育局は仕事が多岐にわたる大変でしたが、このような仕事は自分自身が成長できる貴重な経験だと思います。

最後にこれまで体育局を支えてくださった学生支援課の沼田さん、副局長の中山君、書記の橋内君、そして各部活・同好会の代表者さんにお礼を申し上げます。1年間本当にありがとうございました。

TOPICS

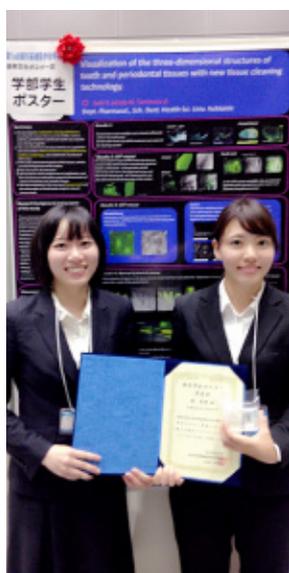
歯学部5年生が歯科基礎医学会「優秀学生ポスター賞」を受賞

8月24日(水)から26日(金)の間、第58回歯科基礎医学会学術大会が札幌コンベンションセンターにおいて開催され、本学歯学部5年生の関有里さんと石田成美さんの研究発表がモリタ賞・優秀学生ポスター賞を受賞しました。

同学会は歯学部の解剖学、組織・発生学、微生物学、生化学、生理学、薬理学、病理学が集まる歯学部基礎系最大の学会であり、モリタ賞は各7分野の若手および学部学生の中から各1題の優秀ポスター賞が選出されます。これらのポスターはすべて英語です。

今回の受賞となった研究発表のタイトルは、「新規組織透明化技術による歯および歯周組織の立体構造解析」です。組織を丸ごと透明化する技術は、脳などの軟組織の3次元的な構造解析技術として注目されています。本研究では歯を含む硬組織の透明化に初めて成功し、共焦点レーザー顕微鏡を使ってマウスの下顎や頭頂骨の構造や石灰化過程を明らかにしたものです。

研究室配属のカリキュラムがある国立大学からの発表が多い中での受賞は、臨床実習後に遅くまで実験してきた学生の努力と本学歯学部の研究活動が高い評価を受けたと言えます。ポスター討論時には、全国から集まった歯学部の教員・大学院生に加え、第1回北海道個体差口腔健康科学シンポジウムに出席した海外提携大学の学生との議論や情報交換が行われました。受賞学生の更なる活躍が期待されます。



眞島いづみ学外研究員(歯学部)が日本細菌学会北海道支部会賞を受賞

9月17日(土)、第83回日本細菌学会北海道支部会学術総会が北海道大学において開催され、歯学部微生物学分野の眞島いづみ学外研究員(日本学術振興会特別研究員PD)のオールプレゼンテーションが優秀賞に選ばれました。

眞島研究員の発表演題「口腔Veillonella全6菌種同定One Step PCR法の開発」は選考委員会から高い評価を受け、国際学術雑誌PLoS One(2016)に本研究内容の一部が発表されております。

眞島研究員は本年11月から、米国のニューヨーク州立大学バッファロー校歯学部口腔生物学講座へ留学中です。



第12回アスタキサンチン研究会で本学大学院生が「アスタキサンチン研究会奨励賞」を受賞

第12回アスタキサンチン研究会が、9月24日(土)、ボルファートとやま(富山市)にて開催され、本学歯学研究科(臨床口腔病理

学)大学院生の原田文也さんが「奨励賞」を受賞しました。同賞は、アスタキサンチン研究の進歩に寄与する優れた研究を発表し、将

来発展の期待される若手研究者に贈られるものです。

原田さんは、富士フィルム(株)の開発したナノアスタキサンチンを用い、「ナノアスタキサンチン経口摂取による紫外線角膜障害の軽症化」というテーマで発表しました。研究の指導は、北市伸義教授(个体差医療科学センター 眼科学系)が中心に行いました(本学共同研究者:森川哲郎大学院生、植原治助教、安彦善裕教授)。また、同グループでは、アスタキサンチンによる口腔がん予防や歯周病予防への応用を目指し研究を進めております。



左から原田さん、吉川敏一会長(京都府立医科大学長)



左から北市教授、原田さん、阪口博之主任研究員(共同研究者、富士フィルム)

EDITOR'S NOTE

2016年も残り2カ月となりました。今年にはリオオリンピックの開催もあり、スポーツ観戦の機会が多い1年でした。今回のオリンピックでは、前回を上回る最多41個のメダル獲得に日本中が歓喜し、4年後の東京オリンピックに向けて日本人選手の活躍に期待が増す結果となりました。

また最近では「北海道日本ハムファイターズ」の日本シリーズ進出で、連日手に汗握り、一喜一憂しながら戦況を見守り続けた方も多かったのではないのでしょうか。首位から最大11.5ゲーム差という大差があったにもかかわらず、逆転優勝、10年ぶりの日本一を果たす結果となりました。

絶望とも思える首位との差があった時、栗山監督が心がけていたことは、「常に選手の力を出し切れる環境をつくる」ということだったそうです。時には、選手たちに非情とも思える競争をさせ、思いもよらないアイデアを実行する。しかしこの考えにより、選手一人ひとりが力を100%発揮し、のびのびとプレーすることができ、だからこそ躍動感のある高いパフォーマンスができたのではないかと思います。

私たち教員も一人の指導者として、学生が力を出し切れる環境をつくり、学生の持っている力を伸ばしていきたいものです。

(R・C記)

ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.165

STAFF ● 遠藤 泰 浜上 尚也 長澤 敏行 伊藤 修一
遠藤 紀美恵 志渡 晃一 金澤 潤一郎 武田 涼子
澤村 大輔 白鳥 亜矢子 千葉 利代 杉谷 昌彦
宮川 雄一 塚田 将人 園部 望未

発行日 ● 2016年11月

編集・発行 ● 北海道医療大学広報・教育事業部 入試広報課
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757
☎0120-068-222
<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/>

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしております。
E-mail:nyushi@hoku-iryu-u.ac.jp



北海道医療大学の教育理念

生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。